

ひらかたNPO



9/8
(日)
開催

ひらかたNPOフェスタ2019



9/8
(日)
開催

ひらかたNPOフェスタ2019



昨年は、台風の関係で開催日当日まで雨に悩まされ、今年も直前まで台風がたて続けに発生しヒヤヒヤしましたが、当日は、久しぶりの秋晴れとなりホッとしました。しかし急な暑さで、熱中症が心配となる一日となりました。

このような中、今年のひらかたNPOフェスタ2019は、地元企業や行政、大学も含め、46団体46出展の参加がありました。ステージでは、オープニングセレモニーの後、小さい子どもや大学生など、総勢50人を越える皆さんによる元気いっぱいの子アリーディングが始まりました。その後は、初参加のとおきのおきの音楽祭のUSAダンスや、BJ7によるオカリナアンサンブル演奏のほか、お馴染みの太極拳やフラダンス、河内音頭と続き、最後のジャグリングまで、観客を惹きつけていました。

市民会館大ホールロビーでは、来年開催されるパラリンピック東京大会で正式競技種目のポッチャの模範演技や、実際に体験することもでき、障害があるなしにかかわらず、子どもから大人まで楽しんでいました。ニッパーク岡東中央や市役所別館前での各ブースでは、いつもながらに趣向を凝らした展示や販売でにぎわっていました。リサイクル自転車の販売や生ごみ堆肥で育てた野菜や減農薬で栽培された野菜や果物の販売も人気でした。市民会館では事前予約をした講演や講座、体験など、お目当てのブースに集まっていました。

この日は別のイベントも重なったことから、人出はやや少なかったようですが、参加団体と来場された皆さんとの新たな出会いの場は設けられたと思います。次年度の開催は、オリンピッククイヤーなので、NPOらしいイベントを目指して、同じく盛り上げていきたいと思っています。





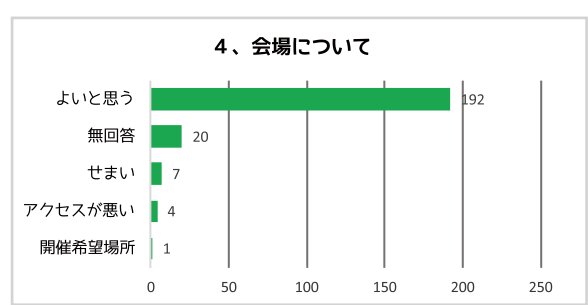
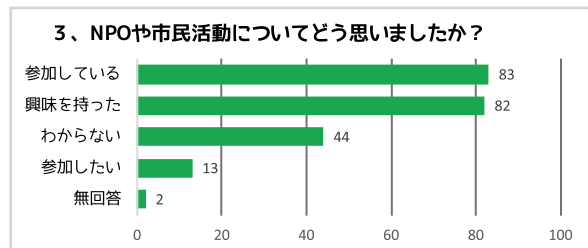
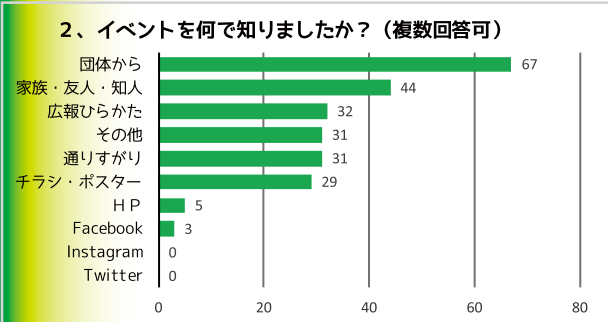
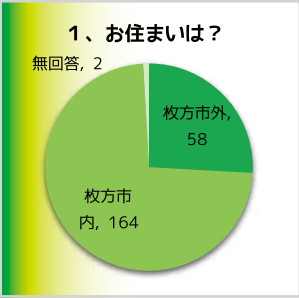
フェスタ来場者アツプ大作戦!

この秋から大学のサークルのイベントを企画するため、なにかノウハウをつかみたいと思い、ひらかたNPOフェスタの企画に参加しました。

まず、NPOフェスタの来場者を増やすための企画を考えるということで、InstagramなどSNSを使った情報発信に取り組みました。フェスタについての発信を行うと同時に、当日のために、顔出しパネルなどを作り、来場者に写真をとってもらうことで、フェスタを盛り上げる準備をしました。

そして当日、一番力を注いだのが、来場者向けアンケートです。今後のフェスタに

活かさればと思います、来場者の声を徹底的に聞きました。その結果、224人分のアンケートを集めることができました。



まず、問1の回答は、枚方市内からの来場者が164人で70%以上でした。おそらく問2の回答からもわかるように、枚方市全域に配布される広報ひらかたの影響が顕著だと思われまます。今回、Instagramを活用し、集客を試みましたが、残念ながら結果には表れませんでした。しかし、途中からフェイスブックも連携し投稿したのがよかったのか、フェイスブックを見て来場した人が3人いました。この結果から言えることは、フェスタの来場者の中には、Instagramに触れる層がほとんどいないということ、SNSでの集客アプローチは、フェイスブックによって進めるのが有効だと感じました。



（関西学院大学2回生・橋本海徹）

問3の回答では、NPOや市民活動に「興味を持った」と答えた人が全体の約4割ほどいました。しかし、私が初めてフェスタに参加して思ったのは、せっかく出し物やブースを見て興味が湧いても、どのように参加したらいいのか、見学したらいいのか、入会方法などを知るための配慮が少なかつたと感じました。もっと活動日や活動内容、参加方法などを明示して、団体に呼び込む工夫があればいいと思いました。

問4の回答は、このままの会場でよいという意見がほとんどでした。中には、駐車場を無料にすると来やすいし、アクセスも良くなるという意見もありました。また、五六市と日を被せない方がよいという意見がありました。これは五六市との連携による相乗効果を狙うことで、マイナスではなくプラスに変えられると考えました。具体的には、一方の会場でスタンプを押す、もう一方の会場でもスタンプを押すと、景品がもらえたり、どちらかの会場で使える食券のようなものを配ったりなど、可能性は十分にあると思います。

天候の影響で、かなり厳しい状況下でのアンケート調査でしたが、ご協力ありがとうございました。





NPOが取り組む「社会的問題」

今回、大学の授業で受けた社会問題について興味があったので、ひらかた市民活動支援センターに登録している中から、社会的な問題に取り組んでいる団体に、話を聞かせていただきました。

親の高齢化と子の経済援助問題

最近、ニユースでもひきこもりの子どもを高齢の親が経済援助しているという報道を目にする機会があり、お話を聞かせてもらうことになったのが、「子どもへの経済援助を考える親の会」です。子どもが、さまざまな理由で社会参加ができず、親が経済的に援助しながら暮らしている方を支援しています。毎月の定例会で、社会制度、生活保護、国民年金などの勉強会を行う一方、新規の参加者には、じっくりと話を聞く時間もとっているそうです。代表の荻野さんは、長年、経済困難な方の相談支援を仕事としてきたこともあり、相談はもちろん、次の一歩につながるアドバイスをもらえると嬉しいです。

会の中で、問題とされていたのは、社会参加できなくなった子どもを援助することで、共倒れするというケースや、親も子ども、どんどん高齢化してきているという現実でした。身近な人ほど相談しにくい問題ですが、同じ問題で悩んでいる人同士で話したりすることで心の負担が減るかもしれないと思いました。



悩める若者に自己表現の場所を

次にお話を聞いた「みんなできつくる学校とれぶりんか」は、代表の中川さんが、中学校教師の頃から取り組んでいる団体です。ひきこもりやニート、不登校など、さまざまな悩みを抱える若者たちが多く参加していますが、まず本人の自立支援になるための活動を目指して取り組んでいます。

苦しく辛い思いを経験し、乗り越えた子どもたちほど人の気持ちがわかる子たちが多いといえます。学校ではフオローできないところを、手助けしてあげること、子どもにとっての居場所、自分を表現できる場所を作っていくことを目指して活動しておられ、そのような場所を見つけられたら、ずいぶんと生きる社会が広がっていくのではないかと思います。



コンビニ経営の難しさと厳しさ

最後に話を聞いたのが、「コンビニと地域環境を考える会」。代表の城さんは、コンビニ店舗の仲間や関心のある人たちとNPO活動を行っています。残念ながら、現在は、睡眠状態ですが、昨今賑わっているさまざまな問題について聞いてみました。

今や生活に欠かせないコンビニですが、人件費は高くなっていく一方で、従業員の人手不足問題、距離規制がないことで起こるコンビニ密集問題など、経営が年々厳しくなっているそう

です。お話を聞く前は、コンビニ経営がこんなにも大変だとは思いませんでした。実際、城さんのNPO仲間の中には廃業した方もおり、生き残りが厳しい業界だと言えます。

一部ニユースで話題となっていた時短営業問題は、会社によって、それぞれ事情は違うようですが、あるコンビニでの実証実験では、深夜時間を休むことで、かえって利益が出たという事例もあるそうです。また食品ロスを防ぐために、販売期限が近づいている商品を値下げする「見切り販売」も行っている店舗もあり、この方法は、スーパー等ではお馴染みだし、法律でも認められているのに、さまざまな事情で導入するのが難しいようです。

今回、さまざまな社会問題に取り組んでいる団体の話を聞いて、大きなニユースにはなっていないけど深刻な問題を抱えている人がいるということを知りました。実際に関わっている人から聞くお話は、言葉の重みがあり、一人で悩み抱え込むより、経験者の方からアドバイスをもらった方がいいと思います。

もし、自分や周りの人たちが問題を抱え悩んでいたなら、一人で抱え込まないように伝えたいです。今後は、さまざまな社会的問題を身近な問題ととらえ、他人事だと思わず、私たちができることを考えることが大切だと思います。



(関西外国語大学3回生・松浦 晴菜)



今後ますます進む少子高齢化。子ども・若者の減少・流出と高齢者の増加。日本各地の「まち」のあり方はどんどん変化が求められています。高齢者にやさしい「まち」はもちろんですが、子どもや若者にとっても魅力的な「まち」にしないと、その地域からの若者の流出を防ぐことはできません。誰もが快適に暮らせる魅力的なまち。そんな「まち」をつくる「まちづくり」に関わりたいと思い、「枚方」のまちについて調べてみました。

市駅周辺の活性化に必要なもの

まず始めに、枚方市のまちづくり施策について、市役所の方にお話を伺いました。枚方市は平成25年に「市駅周辺再整備ビジョン」を策定し、再整備計画を考案されています。枚方市駅周辺一帯を、ゆとりを保ちつつ、かつ回遊性を高めて賑わいを創造するというこの計画は、とても魅力的だと感じました。まだ具体的に整備内容が決まってい

るわけではなく、あくまでイメージだということ、どのような「まち」にしたなら、もっと枚方市がよくなるのか、枚方市外在住の学生目線で考えてみました。

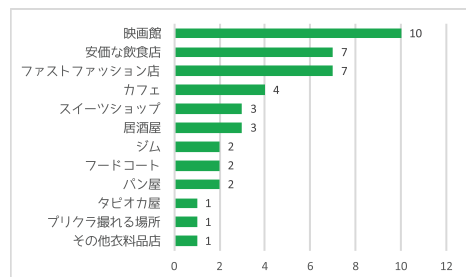
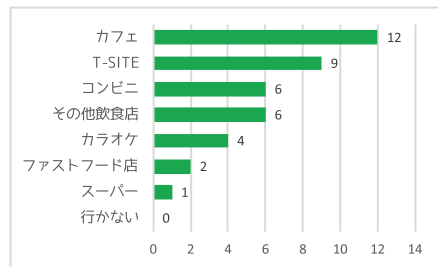
魅力あるまちづくりを考える

枚方市駅周辺の第一印象としては、駅は大きく、もより市やT・SITEなど、綺麗でユニークな施設があり、おもしろいと感じたのですが、その割に賑わいが少ないという印象でした。両施設の開店で、もちろん以前より活性化していると思いますが、それでもまだ何か足りないというのが正直な感想でした。その原因を探るべく、枚方市職員の方にお話を聞いたり、自分の足で市駅周辺及び樟葉駅のくずはモール等を回ってみました。その結果、気づいたのは、枚方市駅の周りには食品のスーパー等は、いくつかあるものの、ファストファッション店など、特に若者向けのお店が少ないということでした。枚方市は大学も多く、枚方市駅を利用する学生が多くいます。枚方市駅にもっと若者向けのテナントがあれば、「学生が集うまち」として、もっと賑わっていくのではないかと考え、学生のニーズをアンケートで調べてみました。



若者にとって魅力的なまちとは

枚方市駅を利用する、関西外国語大学の学生15人を対象に、市駅周辺でよく利用する店と市駅周辺に欲しい店を聞きました。よく利用する店については、スターバックスコーヒーなどのカフェが15人中12人で80%、T・SITEが9人で60%。欲しい店については、映画館が10人



この結果から、近年できたT・SITEの利用率は高いものの、やはりファストファッション店などの若者向けのテナントを求めていることがわかります。また、映画館などの娯楽施設のニーズも高くなっています。私としては、駅前のビルなど改装し、明るいイメージの商業施設にすれば、行きたいと思う人が増え、活性化につながるのではないかと思います。

今回の活動を通して、枚方市について知ることができ、さまざまな魅力的な部分を感じることができました。それらを活かすためにも、これからの枚方市のまちづくりに私も携わりたいと考えるようになりました。

(立命館大学3年生・小関 夏樹)

2030SDGsカードゲーム体験会

8/18
(日)
開催



ゲームの後は、今私たちができることをディスカッションし、「わたしのSDGs宣言」をまとめました。藤田先生が「大人だけでやるよりも、意欲のある小学生がいたことで、気づきが多い回になりました。」と言われていた通り、小中学生の意見や行動は、大人の私たちもハッとさせられる場面が多々ありました。これを機会に、さまざまな場面でSDGsを意識していければと思います。

(中野 ともみ)

SDGsとは、2015年9月の国連サミットで採択された、2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な社会を実現するための17のゴールと、169のターゲットから構成され、「地球上の誰一人として取り残さない」ことを誓っています。8月18日に、2030SDGsカードゲーム認定ファシリテーターの藤田美保先生をお招きし、世界の目標を実現する2030年までの道のりを、ゲームを通じて体験しました。途中、伏見市長も見学される中、小学生・中学生・大学生・行政・企業・NPOなど、多様なメンバー16人で、持続可能な社会について楽しく学びました。



サプリ村野学校

サプリ村野学校の開催については、毎月の広報ひらかたや、ひらかた市民活動支援センターのホームページ、ひらせん情報紙「ひらせんなび」に掲載しています。是非チェックしてください。



8/21(水)ふれあう子育てのススメ
《莓のいえ》



8/6・13・20各(火)
マンガ・イラスト体験
《みんなでつくる学校とれぶりんか》



7/14(日)プログラミング言語体験会
《ハーモニークラブ》



8/22(木)苔テラリウム
《セルフアップサークルLOOP》



8/6・13・20各(火)
コカリナ体験
《みんなでつくる学校とれぶりんか》



7/28(日)親子の絆が深まる囲碁教室
《ハーモニークラブ》

サプリ村野学校 実施団体 募集！！

サプリ村野を会場に、市民を対象とした体験講座・体験授業を実施する市民団体を募集します。受講者や会員・メンバーを増やす機会として、また活動のPRの場としてご活用ください。詳しくは下記まで。

問合せ

TEL：072-805-3537/FAX：072-805-3531

Eメール：info@hirakatanpo-c.net

http://hirakatanpo-c.net/manabis/sapurimuranogakkou



9/7・9/14各(土)これからの社会を
生き抜くための子育て講座
《NPO法人キッズナビわかば》

インターン

ふり 返り

今年の8月から1ヶ月半、夏休みを利用して活動した。それ以外の活動を振り返った。たいていの皆さんに、それ以外の活動を振り返った。



Internship



橋本 海徹
(関西学院大学2回生)

私は、9月から400人規模のサークルの幹部としてイベント企画を担当することになったのですが、このままの自分では人を引っ張って行くことができないと思っていたところ、SNSでお誘いを受け、インターンに参加することになりました。

活動では、コンビニの店長のお話を聞いたり、地域の防災訓練の会議に参加したり、また、一番重きを置いていたNPOフェスタの活動に携わらせていただきました。

物事を1から考え、実行するというのを今までしっかりとすることがなかったので、今回の活動は、とてもいい経験になりました。この経験やイベント企画ノウハウ、アンケートにより得た多様な価値観を活かし、サークルでも1歩先の行動力で400人を引っ張り、関学1のサークルを作ります。



まちづくりがしたい、という思いは強くあったものの、インターンシップ活動当初は、何をすればよいか定まらず足踏みしていました。しかし、プレーパークなどのイベントに参加させていただいたり、枚方市職員の方など、いろんな方にお話を聞かせていただいたことで、改めて自分の関心を見つめ直すことにつながり、インターンシップで取り組みたいことを発見するきっかけになりました。その結果、やはり自分はまちづくりに携わりたいと強く思っているということに気づかされました。

今回のインターンシップで学んだことは、人と人とのつながりの大切さです。いろんな方にお話を聞かせていただく中で、自分の関心により近いお仕事をされている他の方を紹介していただき、自分の中でも、夢に近づいている、という感覚がありました。今後は、このインターンシップで得たことを活かし、将来に向けてがんばっていきたいと思います。



Internship



松浦 晴菜
(関西外国語大学3回生)



インターンシップの活動をするまでは、社会問題についてあまり深く考えていませんでしたが、今回、直接、話を聞く機会をいただいたことから、さまざまな問題について調べ考える良い機会となりました。

今まで大人の方へ取材をする経験がなかったので、話の進め方や、聞きたいことをどう聞き出すかなど、インタビューのし方が難しかったです。何か残せるものができたらいいなと考えていた時に、広報紙に記事を載せる提案をしていただいたおかげで目標が決まり、最後までがんばれたのだと思います。また、取材した内容をまとめ、第三者に見てもらえるようにすることは簡単ではなく、文字にまとめるのが苦手だと気づかされました。1ヶ月半、インターンシップに行き、日頃できない経験ができたので、参加してよかったなと思います。



Internship



小関 夏樹
(立命館大学3回生)



**NPOフェスタ
オフショット**



今年、7月22日から8月23日までの夏休み期間、枚方市内45の留守家庭児童会室で、市民参画事業を実施しました。

今回は、初参加の実施が5団体と増え、23団体が、35のプログラムを子どもたちと楽しみました。特に人気のあった演劇プログラムでは、毎回演者が違い、その都度、見せ方も変わりましたが、子どもたちも指導員の方も、夢中で見入っている様子が印象的でした。

毎年児童数が増える中、体を動かしたり、体験するプログラムが実施しにくくなってきていますが、2部制を導入したり、団体自身も子どもたちに楽しんでもらおうと工夫したプログラムが多かったです。来年も楽しみにしてください。



留守家庭児童会室 市民参画事業

編集後記

この夏も、さまざまな異常気象に悩まされることが多かったが、夕立ひとつとっても、30年前とは何か違う。最近の台風も、何かしら大規模な被害をもたらすようになった。昔とは違うという認識をしっかりとしないと命が守れない事態になっている。

16歳のスウェーデン人少女、グreta・トゥーンベリさんの気候変動の対策に関する怒りのスピーチが話題となったが、本気で私たち一人ひとりが取り組んでいかないと、30年後の地球はもたないかもしれない。そんな不安を感じてしまう夏だった。(編集者・S)

【編集・発行】

特定非営利活動法人 ひらかた市民活動支援センター
〒573-0042
大阪府枚方市村野西町5-1サプリ村野内
TEL: 072-805-3537 / FAX: 072-805-3532
Eメール: info@hirakatanpo-c.net
http://www.hirakatanpo-c.net/



ひらかた市民活動支援センター公式インスタ
@hiracen_info



特定非営利活動法人ひらかた市民活動支援センター
@hiracen



ひらせん(ひらかた市民活動支援センター)
@hiracen_info

イラストだより



8月、香港に行ってきました。飛行機に日本人客はほとんどいません。着いたのが日曜日の夕方、ちょうどデモ帰りの若者が街に溢れていて緊張しましたが、みな整然とし、リラックスしていたので、ちょっと拍子抜け。翌日からオーシャンパークのジェットコースターに乗ったり、マカオへ日帰り旅行をしました。

飲茶やお粥、麺類も満喫し、コンビニでハイネケンのロング缶が100円なので、水がわりにガブガブ飲み大満足。行く直前まで中止にするか悩んでいましたが、行って良かったあ！ (イラスト・文/向井 範雄)